

福祉文教常任委員会 小出嶋 文雄

1 白川町

①インクルーシブ教育について

妊娠期から中学校卒業まで、途切れのない支援を目指した「白川町子ども発達支援システム」により母親の妊娠期から中学を卒業するまで、保健センター、乳幼児学級、子ども発達支援教室、保育園、小中学校等様々な機関が子どもに関わり、教育委員会、町内外の教育、福祉、医療などの機関が連携し協力しながらその子に必要な教育的支援をする仕組みを作っている。（平成25年に立ち上げ）

保育園、小学校、中学校の職員、保健師、教育委員会職員などで構成する「白川町発達支援連絡協議会」が中核を担い連携を図りながら途切れない支援を進めている。

妊娠期から小学校入学⇒保健センター

乳幼児期から保育園入園⇒子育て支援センターちびっこひろば

幼児期から児童期⇒白川町子ども発達支援教室おひさま

保育園、小学校、中学校⇒白川町発達支援連絡協議会

教育相談を通じ、中級指導教室、特別支援学級、特別支援学校などの支援、就学先相談

白川町こども家庭センター⇒妊娠期から子育て中の方、家庭に対し子どもたちが安心して健やかな生活が送れるように支援

所感

白川町は、国のモデル事業を導入して進めてきており連携のシステムができている。

箕輪町でも一つ一つの支援事業には取り組んでいるが、システム的な連携を作つていけば見えやすくわかりやすくなるのではと感じた

子どもの考え方を中心に進める必要があると感じた。

2 複合施設コリン

愛知県碧南市にある社会福祉法人愛生館グループが運営する認定こども園、高齢者デイサービス、児童発達支援事業所、放課後デイサービス、地域交流サロンの複合施設「CORRIN」

地域との交流、世代間の交流を積極的に進めている状況は地域にも潤いを与えていると感じたまた入所者も安心して過ごせる施設だと感じた。

当町にもこのような法人の誘致ができればよいと感じた。

3 滋賀県日野町 わたむきの里

①生涯を通じた途切れない支援

放課後クラブともだち（障害児45人が登録）⇒養護学校⇒わたむきの里作業所、

②ずっとこの街で暮らし続けたい⇒生活を支えるグループホーム群（8箇所39人の定員、短期入所対応あり）

③小学生から入職まで継続的な関わりを作業所と持ち続ける（わたむきの里）

○みんなで取り組むまちづくり（わたむきの里福祉会）

地域資源のリサイクル事業

ペットボトルの収集再生

高齢者の見守りと食事の提供（1日2回40食）

耕作放棄地解消（水稻、日野菜）、米のブランド化

日野町産材の有効活用で里山保全

働き・暮らし応援センター

就業・生活支援センター 中間就労の場、地域課題解決型中間就労の場

所感

就業支援組織化ができればいい

まちづくりと結びつけることができればいい

福祉・共生の組織横断的取り組みを進める必要性

4 公共交通

スクールバスと路線バスの共用活用